

川合西3自警団

自警団は、「自分達の地域は自分達で守る」を合言葉に、平成8年に結成され、自治会と一体となった活動をしています。

例年の活動は、初期消火訓練など実践に近い訓練、住宅用火災警報器の設置説明や犯罪防止フォーラム、AEDの使用講習会などを開催しています。また、自治会との連携を密にし、地域防災意識のさらなる向上を目指し「防災台帳」の見直しを行い、ソフト面の活動も実施しながら防災意識の高揚を図っています。

災害は、いつやってくるか予測できませんが、初期消火訓練などの積み重ねが災害時に慌てずに行動がとれると信じて活動しています。これからも「防火・防災・防犯」の3本柱を中心に、明るいまちを自治会とともに作っていきたいと思います。

川合西3自警団長
渡辺 孝男

▶ AEDを使用した
講習会



災害時に、真つ先に力を発揮するのは、被災現場にいる地域の人たちです。過去の大地震においても、組織が充実している地域では、地域住民の適切な防災活動により被害を少なくしています。

それには、災害に備えて防災訓練を実施するなど、自主防災力を高めることが重要です。

ここでは、市内で活動している二つの防災組織と新潟県中越沖地震の被災地復興作業をしてきた職員の体験談を紹介します。

地域住民で備える！

美濃加茂市災害協力隊

市の消防防災体制の要である消防団員は、293人体制を維持しています。しかし、社会構造の変化により、サラリーマンや市外の勤務者が多くなり、昼間の出勤人員が十分確保できない状況にあります。そこで、防災に関する豊富な知識・技術を持つ消防団の経験者や、退職消防職員を中心に、各地域での自主防災組織などの諸活動を後方から協力・支援できるよう結成しました。

隊員は、256人で組織され、自治会と協力し合い、自主防災組織などの防災訓練にも積極的に参加し、地域の防災力を高めるために力を注いでいます。被災地からの報告では、約77%の人が地域の人によって助けられたといわれています。

震災に備えて地域が団結し災害に強い地域を



目指すために、人とのつながりを大切にし、日ごろから訓練を積んでいきたいと思っています。

美濃加茂市災害協力隊
隊長 加納 忠幸さん

水道部水道課
酒向 一也 技師
柏崎市で5日間の
復興作業を行う



被災地では、水道の漏水調査を行いました。映像で見ていただけの被災地の状況を目の当たりにし、災害の恐怖で最初は身の震えを感じるほどでした。

水道は、滞在した5日間で50%から90%程度まで復旧しました。作業をしながら、まちが日々元の元気を取り戻していく状況を見て、そこに地元や応援の人たちの血のにじむような努力があることを感じました。災害復興は、行政だけの力ではできません。官民が上手に連携をとることが不可欠です。それ以前に、まず自身が生き残ることが大切で、そのためにどのような備えをするかは、これからの一人一人の行動に委ねられます。

地震だけでなくあらゆる災害に対して、自分や大切な人を守るためには、今から備えを始めることを市民の皆さんにも、ぜひ、お願いしたいと思っています。

新潟県中越沖地震被災地復興作業を体験して